

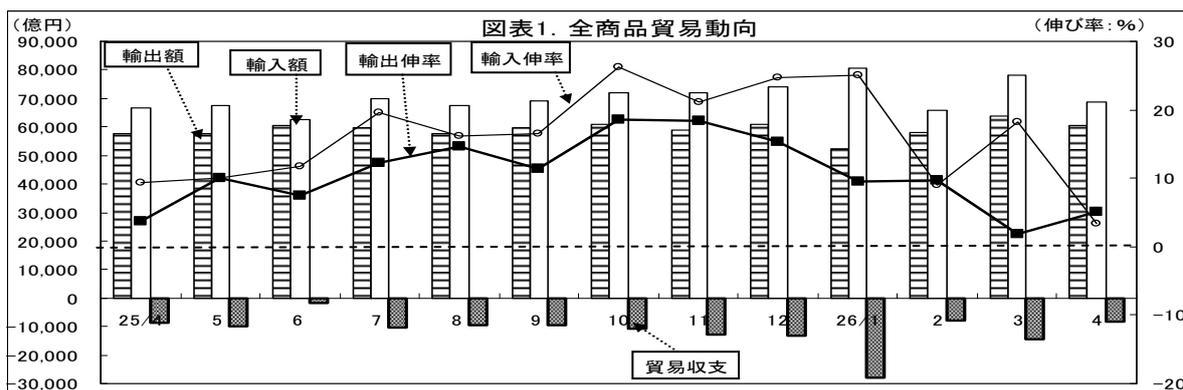
最近の機械貿易動向(4月)～機械輸出伸び率若干回復、為替要因除いてもプラス成長～

日本機械輸出組合 2014.6.19.

平成 26 年 4 月の機械輸出額は 3 兆 9,025 億円、対前年同月比 7.5%増と 12 ヶ月連続でプラスとなり、3 月に比べて伸び率が若干回復したが、2 ヶ月連続で一桁台となった。これは、①為替要因が一桁前半の増加であったこと、②北米、NIES/ASEAN 向けが引き続き、大幅鈍化していること、③機械輸出額の約 35%を占める自動車や、産業機械、電子デバイスの伸びが一桁にとどまったことなどによる。為替・営業日が 4.5%の増加要因であったことを考慮すると、実質的な伸び率は 2.9%増と再びプラスとなった。5 月も円安傾向は継続するものの、営業日が一日少ないため、3.0%の減少要因となる。仮に 4 月の機械輸出額の実質的伸び(2.9%増)が続くとすれば、前年比 0.1%減と予想される。6 月 18 日発表の貿易統計速報を基にした簡易計算では 5 月の機械輸出は 1.6%減であった。

1. 全商品貿易動向～輸出は 14 ヶ月連続プラスも一桁台、輸入は 16 ヶ月ぶりに最低の伸び～

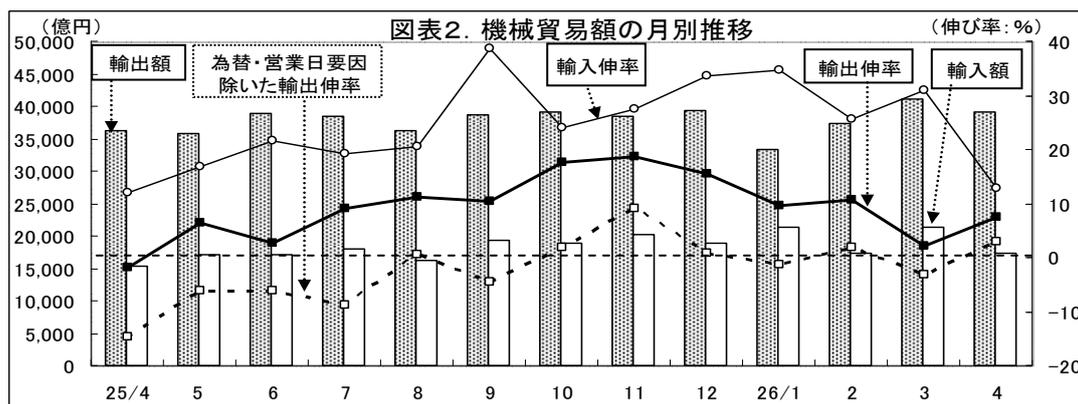
- 平成 26 年 4 月の全商品輸出額は **6 兆 675 億円**、前年同月比(以下同じ)**5.1%増**と 14 ヶ月連続でプラスとなり(3 月 1.8%増)、伸び率は前月に比べて若干増加した。これは、円安要因が大幅に縮小しているものの、全輸出額の約 20%を占める一般機械(10.8%増)や、約 17%を占める通信機等電気機器(5.3%増)等の伸び率が前月に比べて拡大したためである。
- 輸入額は **6 兆 8,792 億円**、**3.4%増**と 2 ヶ月ぶりに一桁増となり(3 月 18.1%増)、輸出の伸び率を下回った。これは、円安要因の縮小に加え、3 月の駆け込み需要の反動や全輸入額の約 32%を占める原粗油等鉱物性燃料(6.0%減)の伸び率がマイナスとなったことによる。
- この結果、輸出額から輸入額を差し引いた貿易収支は 8,117 億円の赤字となり、4 月としては、1979 年以來、昨年に次ぐ大きさの赤字となった(昨年 4 月は 8,774 億円の赤字)。



2. 機械貿易動向

(1) 機械輸出入動向～機械輸出 12 ヶ月連続プラスも一桁台、輸入は 10%台の伸び率に減速～

- 全商品輸出額の約 64%を占める 4 月の機械輸出額は **3 兆 9,025 億円**、**7.5%増**と 12 ヶ月連続でプラスとなり、3 月に比べて伸び率は拡大した(3 月 2.0%増)、輸出額の水準は、リーマンショック前(平成 20 年 4 月)と比べると **83.1%**となり、前月に比べて 4.9 ポイント回復(3 月 78.2%)。
- 一方、全商品輸入額の 25%を占める機械輸入額は、**1 兆 7,385 億円**、**12.7%増**と 20 ヶ月連続の増加となったものの、伸び率は 9 ヶ月ぶりに 20%を下回った(3 月 30.9%増)。また、輸入額は、平成 20 年 4 月の **114.5%**と、13 カ月連続してリーマンショック前の水準を上回っている(3 月 124.2%)。

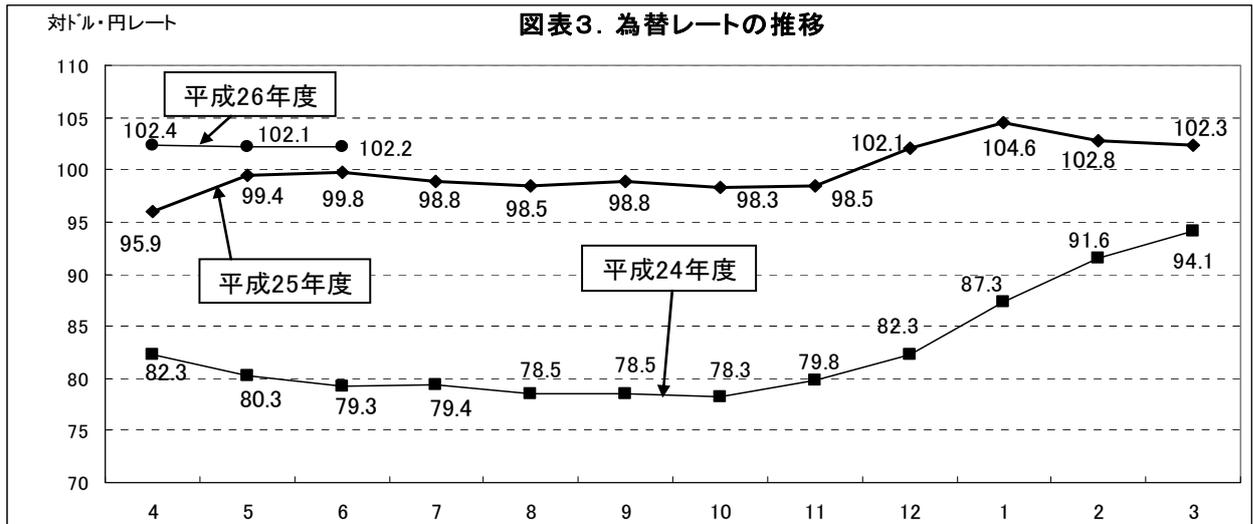


(2) 為替動向・営業日～4月は4.5%の増加要因、5月は3.0%の減少要因～

1) 4月は1ドル=102.4円と円高是正がやや弱まり、前年に比べ6.8%の円安となった。また、対ユーロも141.4円と前年に対して14.1%の円安となり、合わせて約4.5%の為替増加要因に縮小した。営業日は前年と同じため、合計4.5%の増加要因となる。4月の輸出額は7.5%増であったことから、実質的伸び率は2.9%増と再びプラスになった(3月3.3%減)。

2) 5月は1ドル=102.1円と前年に比べ2.7%の円安に縮小した。また、対ユーロでは141.2円で前年に対し9.0%の円安となり、合わせて約2.0%の為替増加要因となった。営業日は前年より1日少ないため、4.8%の減少要因となり、合計でマイナス3.0%と2013年2月以来14ヶ月ぶりの減少要因となった。

3) 6月は、対ドルが6月18日17:00時点の102.2円とすれば、前年に比べて2.4%の円安、また、対ユーロも138.4円と6.1%の円安となり、合わせると約1.7%の為替増加要因となる。営業日は前年より1日多いため、5.0%の増加要因となり、合計で6.4%の増加要因となる。



(3) 地域別動向～中国、EU向けが二桁増、NIES/ASEAN、北米向けは一桁前半の伸び～

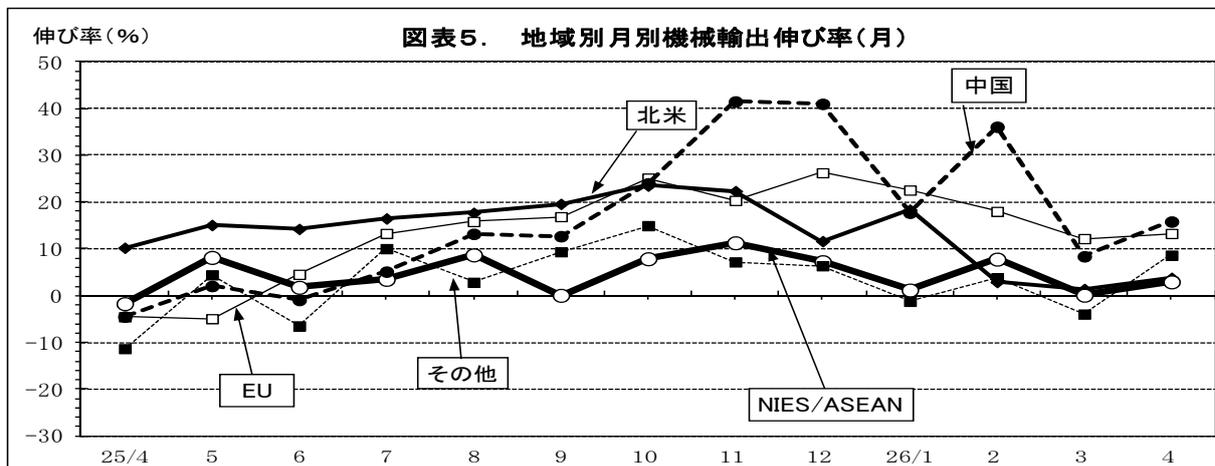
1) 機械輸出額の地域的動きをみると、①機械輸出額の16.9%を占める中国向けでは、半導体製造装置等産業機械(21.7%増)、自動車(12.0%増)、光学機械(19.4%増)等が大きく伸び、15.8%増となり、②11.4%を占めるEU向けは、全体の約31%を占める自動車(14.9%増)をはじめ、分析・試験・検査機等軽機械(27.0%増)、建設機械(63.8%増)、電子デバイス(33.4%増)が大幅にプラスとなり、13.3%増と11ヶ月連続でプラスとなった。③20.1%を占めるその他地域向けは、インド(25.4%減)、ロシア東欧等(10.6%減)が大幅減となったものの、中近東(30.0%増)、中南米(12.9%増)、アフリカ(10.6%増)向けが二桁増となり、機種では、全体の約61%を占める自動車(4.5%増)をはじめ、船舶(46.3%増)、建設機械(36.5%増)が増加して8.7%増となった。④24.4%を占める北米向けでは、全体の約49%を占める自動車(3.3%増)をはじめ、建設機械(4.0%増)、軽電気機械(12.8%増)等が増加して3.8%の増加となった。⑤27.2%と最大輸出先であるNIES/ASEAN向けでは、台湾(16.5%増)、香港(15.4%増)、フィリピン(13.4%増)、ベトナム(20.5%増)が大幅増加となったものの、タイ(13.2%減)向けが二桁減となり、業種では、産業機械(10.1%増)、電子デバイス(3.5倍)が大幅増加したものの、自動車(8.8%減)等が大幅に減少して2.9%増となった。

2) また、リーマンショック前の平成20年4月の地域別輸出額と比較すると、中国(103%)向けはプラスとなったものの、EU向けが50%台、NIES/ASEAN、北米、その他地域向けは80%台であった。

図表4. 最近の地域別機械輸出動向 (単位: 億円)

	2014/2			2014/3			2014/4			対08年 4月比
	金額	伸び率	シェア	金額	伸び率	シェア	金額	伸び率	シェア	
全世界計	37,334	10.7	100	41,093	2.0	100	39,025	7.5	100	0.83
北米	8,919	2.9	23.9	9,426	1.4	22.9	9,504	3.8	24.4	0.89
EU	4,323	18.0	11.6	4,580	12.2	11.1	4,461	13.3	11.4	0.57
NIES/ASEAN	9,794	7.8	26.2	11,090	0.1	27.0	10,611	2.9	27.2	0.87
中国	6,388	36.1	17.1	7,064	8.4	17.2	6,591	15.8	16.9	1.03
その他	7,911	3.8	21.2	8,932	▲3.9	21.7	7,858	8.7	20.1	0.81

は、2ヶ月連続で前年比10%以上プラス。



図表6. NIES/ASEAN・その他地域向け機械輸出の推移(月別)(金額単位:億円)

国名	2014/1		2014/2		2014/3		2014/4	
	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率
韓国	1,472	▲ 2.9	1,810	8.6	2,039	▲ 0.9	1,819	▲ 4.0
台湾	1,521	8.7	1,633	14.0	1,933	9.7	1,817	16.5
香港	1,184	▲ 0.3	1,472	34.2	1,648	14.2	1,686	15.4
タイ	1,396	▲ 14.2	1,562	▲ 13.0	1,721	▲ 15.3	1,607	▲ 13.2
シンガポール	746	7.5	878	35.5	969	2.4	878	▲ 7.0
インドネシア	758	11.1	757	▲ 13.3	855	▲ 16.3	913	▲ 0.6
マレーシア	583	9.0	673	▲ 2.4	801	4.8	730	7.8
フィリピン	448	4.2	513	8.0	531	1.8	606	13.4
ベトナム	320	21.2	407	33.8	484	18.3	436	20.5
その他地域								
中南米	1,880	▲ 26.9	2,319	12.7	2,660	▲ 11.7	2,277	12.9
中近東	1,627	29.8	1,848	19.3	2,093	19.7	2,010	30.0
大洋州	1,078	14.8	1,077	▲ 9.9	1,300	▲ 6.3	1,114	▲ 6.2
ロシア東欧等	1,335	13.3	1,368	0.5	1,457	▲ 0.2	1,229	▲ 10.6
アフリカ	609	▲ 9.8	814	▲ 14.4	721	▲ 22.3	653	10.6
インド	317	▲ 13.7	317	▲ 18.0	433	▲ 10.7	311	▲ 25.4

は、2ヶ月連続で前年同月比プラス(10%以上)

(4)業種別動向～19業種中2業種マイナス、自動車13ヶ月連続プラスも一桁前半～

- 業種別では、全19業種中2業種がマイナスとなり、前月より5業種減少した。全体の約35%を占める自動車(3.9%増)が13ヶ月連続、約17%の産業機械(9.5%増)が12ヶ月連続でプラスとなったほか、工作機械(26.3%増)、通信機械(27.4%増)が20%を超える高い伸びとなった。他方、民生用電子機械(2.8%減)、陸用内燃機関(0.4%減)が減少した。
- この結果、リーマンショック前の水準を超えたのは医療機械、ベアリング、光学機械、重電気機械の4業種で、電子計算機、民生用電子機械が40%台の低い水準にある。

図表7 上位19業種の輸出額の動き

(単位:億円、%)

機種名	2014/2			機種名	2014/3			機種名	2014/4			対08/3比
	金額	伸び率	シェア		金額	伸び率	シェア		金額	伸び率	シェア	
自動車	12,996	4.9	34.8	自動車	13,633	4.7	33.2	自動車	13,784	3.9	35.3	0.83
産業機械	6,648	17.4	17.8	産業機械	7,462	6.1	18.2	産業機械	6,672	9.5	17.1	0.90
電子デバイス	2,663	8.5	7.1	電子デバイス	2,906	▲ 3.8	7.1	電子デバイス	2,929	1.2	7.5	0.77
軽電気機械	1,886	11.0	5.1	重電気機械	2,168	3.2	5.3	重電気機械	2,063	11.5	5.3	1.01
重電気機械	1,825	15.0	4.9	軽電気機械	2,097	1.0	5.1	軽電気機械	2,020	5.6	5.2	0.80
船舶	1,770	17.0	4.7	船舶	1,856	▲ 17.9	4.5	軽機械	1,574	14.0	4.0	0.91
軽機械	1,435	17.9	3.8	民生用電子機械	1,574	▲ 1.1	3.8	民生用電子機械	1,462	▲ 2.8	3.7	0.45
民生用電子機械	1,328	8.0	3.6	軽機械	1,548	5.7	3.8	光学機械	1,410	17.3	3.6	1.16
光学機械	1,317	16.5	3.5	光学機械	1,477	4.4	3.6	船舶	1,255	9.6	3.2	0.70
建設機械	901	▲ 2.1	2.4	建設機械	1,163	▲ 14.2	2.8	建設機械	1,096	19.6	2.8	0.73
工作機械	741	9.8	2.0	工作機械	910	2.8	2.2	工作機械	770	26.3	2.0	0.99
通信機械	468	12.8	1.3	通信機械	530	9.3	1.3	通信機械	547	27.4	1.4	0.63
電子計算機	405	▲ 7.6	1.1	電子計算機	495	▲ 6.5	1.2	ベアリング	422	16.1	1.1	1.19
ベアリング	387	20.5	1.0	医療機械	472	5.4	1.1	電子計算機	419	5.9	1.1	0.43
陸用内燃機関	375	19.7	1.0	陸用内燃機関	411	▲ 4.1	1.0	陸用内燃機関	366	▲ 0.4	0.9	0.84
医療機械	369	6.7	1.0	ベアリング	398	5.7	1.0	医療機械	359	16.3	0.9	1.46
繊維機械	308	53.1	0.8	繊維機械	304	31.6	0.7	繊維機械	218	6.3	0.6	0.86
農業機械	163	1.8	0.4	農業機械	183	4.7	0.4	農業機械	178	18.8	0.5	0.74
産業車両	127	15.1	0.3	産業車両	128	▲ 0.9	0.3	産業車両	142	13.9	0.4	0.60
19業種合計	36,112		96.7	19業種合計	39,716		96.7	19業種合計	37,687		96.6	0.82

は2ヶ月以上連続で10%以上増加。・民生用電子機械:デジカメ、TV、部品。電子計算機:パソコン、HDD、プリンター等部品。軽電気機械:白物家電、電子計測器。軽機械:分析器。光学機械:光学材料、カメラ。

(5) 機種別動向～産業用ロボット、半導体製造装置等大幅増、電子応用装置、原動力機械等大幅減～

1) 3月で10%以上の伸び率を示した機種は、①中国、NIES/ASEAN、北米向け**産業用ロボット**(43.8%増)、②NIES/ASEAN、中国向け**半導体製造装置**(35.9%増:8ヶ月連続二桁)、③中国、NIES/ASEAN向け**通信機械**(27.4%増)、④NIES/ASEAN、中国、北米向け**工作機械**(26.3%増)、⑤北米、その他地域向け**建設機械**(19.7%増)、⑥北米、NIES/ASEAN向け**農業機械**(18.8%増)、⑦中国、NIES/ASEAN向け**光学機械**(17.3%増)、⑧NIES/ASEAN向け**時計**(16.6%増)、⑨全地域向け**ベアリング**(16.4%増)、⑩北米、EU向け**医療機械**(16.3%増)であった。

2) 一方、最も落込み幅が大きいのが、電子応用装置(28.2%減)、原動力機械(25.7%減)、発電機(10.2%減)であった。

図表8. 伸び率上位機種(月50億円以上、前年比伸び率10%以上、10機種以内) (単位:億円)

2014/2			2014/3			2014/4		
機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率
発電機	135	64.3	半導体製造装置	1,425	42.7	産業用ロボット	141	43.8
半導体製造装置	1,374	60.0	産業用ロボット	138	32.2	半導体製造装置	1,169	35.9
繊維機械	308	53.2	繊維機械	304	31.9	通信機械	547	27.4
産業用ロボット	118	39.0	運搬機械	357	31.0	工作機械	770	26.3
磁気カード・ディスク等	164	25.8	TV	110	28.3	建設機械	1,096	19.7
TV	94	24.2	電池	218	12.7	農業機械	178	18.8
時計	79	22.8	乗用車	7,800	12.3	光学機械	1,410	17.3
ベアリング	387	20.5	機種合計	10,352	25.2%	時計	98	16.6
陸用内燃機関	375	19.7				ベアリング	422	16.4
原動力機械	514	18.8				医療機械	359	16.3
機種合計	3,548	9.5%				機種合計	6,190	15.9%

は、2ヶ月連続で上位機種・機種合計の%は輸出額に占める割合
運搬機械:クレーン、ウインチ、エレベーター等

図表9. マイナス伸び率上位機種(月3億円以上、10%減以上、10機種以内) (単位:億円)

2014/2			2014/3			2014/4		
機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率
録画・再生機器	7	▲44.8	金属加工機械	345	▲20.7	電子応用装置	28	▲28.2
機種合計	7	0.0%	船舶	1,856	▲17.9	原動力機械	375	▲25.7
			建設機械	1,163	▲14.1	発電機	93	▲10.2
			電子応用装置	55	▲11.9	機種合計	496	1.3%
			機種合計	3,419	8.3%			

は、2ヶ月連続でマイナス上位10位以内・機種合計の%は輸出額に占める割合
電子応用装置:電子顕微鏡等

(6) 機械輸入動向～一般的に伸びが大きく鈍化、医療機械はマイナスに～

1) 4月の機械輸入伸び率は12.7%増と9ヶ月ぶりに20%を下回り、円安要因の大幅な縮小や駆込み需要の反動、輸入上位12機種全てにおいて、3月に比べて伸び率が縮小したことによる。中でも、主要機械輸入機種である電子デバイス(46.4%→31.1%)、電子計算機(30.2%→15.4%)、携帯電話(49.4%→10.9%)、自動車部品(49.0%→20.9%)において、伸び率の低下が著しく、加えて24ヶ月連続で増加していた医療機械(2.5%減)もマイナス成長とになった。

2) なお、輸入額が輸出額を上回っている機種は電子計算機、携帯電話、白物家電、医療機械、時計、TV、録画・再生機器、ラジオ、写真機となっている。

3) 地域別機械輸入額は、全体の44%を占める中国(14.0%増)、ASEAN(9.8%増)、韓国・台湾(21.3%増)、EU(4.9%増)、北米(12.6%増)、その他地域(10.4%増)の順であった。

図表10. 機械輸入額上位12機種 (単位:億円、%)

2014/2				2014/3				2014/4			
機種名	金額	伸び率	シェア	機種名	金額	伸び率	シェア	機種名	金額	伸び率	シェア
電子デバイス	2,123	43.2	12.3	電子デバイス	2,641	46.4	12.4	電子デバイス	2,282	31.1	10.7
電子計算機	2,012	18.3	11.7	電子計算機	2,618	30.2	12.3	電子計算機	2,044	15.4	9.6
携帯電話	1,131	2.1	6.6	携帯電話	1,593	49.4	7.5	携帯電話	1,006	10.9	4.7
乗用車	977	84.5	5.7	乗用車	1,080	20.2	5.1	自動車部品	920	20.9	4.3
自動車部品	918	38.9	5.3	自動車部品	1,058	49.0	5.0	白物家電	781	8.9	3.7
医療機械	689	27.0	4.0	医療機械	821	36.9	3.9	乗用車	732	2.4	3.4
白物家電	594	34.0	3.4	白物家電	750	21.6	3.5	医療機械	491	▲2.5	2.3
航空機類	479	18.6	2.8	航空機類	704	47.4	3.3	航空機類	404	35.2	1.9
分析・試験・検査機	409	15.9	2.4	分析・試験・検査機	449	32.5	2.1	民生用電子部品	328	3.3	1.5
TV	320	63.3	1.9	光学機械	391	16.7	1.8	風水力機械	320	23.3	1.5
光学機械	312	6.8	1.8	民生用電子部品	379	24.8	1.8	光学機械	308	4.6	1.4
民生用電子部品	307	19.4	1.8	TV	314	16.1	1.5	分析・試験・検査機	299	15.7	1.4
12機種合計	10,271		59.5	12機種合計	12,798		60.2	12機種合計	9,915		46.6

は対前年比が2ヶ月連続で10%以上増加。白物家電:民生用電気機械

*機械貿易動向は毎月10日までに作成する。

*円、ドル、ユーロ、ウォンの変動を、円が対ドル 90 円を基点として、円、ドル、ユーロ、ウォンが対前年比でどのように変化したかの図表を作成する。

*解説

(1)風水力機械(輸出)内訳:①エアコン、冷蔵庫、冷凍機用気体圧縮機(17%)、②自動車、ガソリンスタンド用ポンプ(13%)、③気体ポンプ、送風機(12%)

(2)風水力機械(輸入)内訳:①気体ポンプ、送風機 (28%)、②エアコン、冷蔵庫、冷凍機用気体圧縮機(24%)